



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

公益財団法人 友愛

〒112-0002

東京都文京区小石川

1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-Mail:you-i@yuai-love.com

http://yuai-love.com

編集人：羽中田元美

隔月1回 10日発行

会費(4月～3月)

個人／3,000円以上

法人／10,000円以上

第二十回通常理事会開催

二〇二二年度事業計画・事業予算を協議・承認

国際交流事業・表彰事業・普及啓発活動など例年通りに実施
新型コロナウイルス・国際情勢など難題も多い

二〇二二年三月二十六日（土）午前十時より、友愛サロンにおいて、第二十回通常理事会が開催され、二〇二二年度の事業計画及び事業予算について協議された。協議では活発な意見が交わされ、特に新型コロナウイルスの影響で二年間に亘り実施できていない状況もあることから、国際交流に関する事業について協議が重ねられた。次年度に迎える創立七〇周年記念事業についても、具体的な方針を協議、決定した。

協議の結果、全会一致で二〇二二年度事業計画書（案）及び事業予算書（案）が承認された。

午前十時、出席者の確認が行われた。定足数を満たしていることが確認され、第二十回通常理事会の成立が議長により宣言された。その後、鳩山由紀夫理事長が以下の通り挨拶した。

世界は、ウクライナ情勢など、穏やかではない状況が続いています。当財団の公益事業も新型コロナウイルスの影響などで、思うように推進できない状況にあります。しかし、こんな時こそ、友愛の理念が必要なのではないかと、強く思っています。

ウクライナ情勢、ミャンマーの状況などを見ても、こんな時こそ、友愛の理念が必要と強く思いますと挨拶

各担当理事による詳しい説明を受け、協議にも熱が入る。換気等に充分注意して理事会が開催された



今後は、こうした制度の活用も含め、公益財団法人友愛として、次代の若者に友愛の理念を伝え、世界の平和に資するという、定款に掲げている目的の遂行に努めて参りたいと存じます。おかげ様で、理事各位が積極的に活動してくださ

り、若者の活動母体「友愛ユニオンの会」も育ちつつあります。期待と希望をも

めの広島市視察などを実施。戦争の傷跡を有する日本とオーストリアの若者で、世界平和に向けての相互の歴史と文化を学び、相互理解を深める事業。

②エヤップ派遣事業
若千名の学生を募り、難民の受け入れに積極的な活動を進めているエヤップの活動の実態を体験し、世界の平和について考える機会を提供する。

新型コロナウイルスの影響で、二〇二〇年度及び二〇二一年度の派遣事業においては、派遣員の選考までは実施できたが実際の派遣は見送られた。二〇二二年度において二〇二〇・二〇二一年度を選考されている派遣員を機を見て派遣する。併せて二〇二二年度の新規募集も実施、年度内の派遣を目指し事業を実施する。いずれの場合も、エヤップと密に連絡をとり、安全第一を主眼に実施する。

③ミャンマー受入事業
ミャンマーの主たる産業である農業に関する技能を学ぶ機会を与える。特に、将来収入源となることが見込まれる作物の育成方法及び農産物が商品として流通する方法の技術を自国に持ち帰り、貧困の解消の一助となるべく技能研修の機会を与える。同時に国内の若者に、ミャンマーとの交流による国際相互理解を深める機会とする。

④友愛国際写真コンクール
友愛・平和・環境をテーマにインターネットを通じて作品を募集し、訴求力の高い作品を表彰する。本事業においては、中国国際青年交流中心をカウンターパートとして実施することが難しい状態となっている。このため「中華社会文化発展基金会」など民間の公益団体を対象に、共同開催する方向で進める。

⑤友愛小論文コンテスト
世界の融和を求めるとき、隔たりとなる要因の一

点ではミャンマーとの往来が難しい状況にある。二〇二二年度は、昨年度同様、日本国内に在住の学生を対象とし、主に土壌改良についての研修を実施することとし、それらの内容でリーフレット等を作成、友愛ファームに携わる現地の既研修生等に送り、現地の農業の発展の一助となる活動を行うこととした。

七年に亘る本事業の実施によって得られた「土壌改良の必要性」「安価な有機肥料の製造」の二点を中心に、農業支援活動が続けることとなる。

必要に応じて、現地に基地局となる拠点を置くことも検討する。

⑥普及啓発事業
機関紙「友愛」を発行し、広く当財団の活動を通して国際相互理解の重要性を伝える。併せてホームページ上に既刊の機関紙全てを掲載し、広く閲覧に供する。ホームページの活用を軸に、友愛理念のもと世界に向けて、平和と国際相互理解の精神と重要性の普及啓発につながる情報を提供する。

二〇二三年に本財団創立七〇周年を迎えることから、七〇周年記念事業の一環として「七〇周年記念誌」を作成し、関係各位及び公共の図書館などに贈り、友愛の普及を図る。

友愛の普及につながる小冊子を作成し、機を得て配布する。

二〇二二年度は、以上の事業計画のもと活動を実施することとなった。理事会は定刻通り終了した。

二〇二二年度は、以上の事業計画のもと活動を実施することとなった。理事会は定刻通り終了した。

二〇二二年度は、以上の事業計画のもと活動を実施することとなった。理事会は定刻通り終了した。

友愛時評

ロシアのウクライナ侵攻が、中国の台湾侵攻の可能性を高めたのか否か見方が分かれている。「一つの中国」は建国以来の国是であり、権力基盤を一段と強化した習近平国家主席にとって「台湾統一」は支配体制確立の仕上げとも言える。ウクライナでのロシア軍の苦戦と西側諸国の経済制裁の厳しさを目の当たりにして、中国はむしろ以前より台湾侵攻に慎重になっているという分析も伝えられているが、二一世紀に入ってから「力による現状変更」の試みが国連常任理事国によって為されたという事実は、東アジアの軍事情勢や各国の戦略に多大な影響を及ぼすだろう。▼そうした中で行われた「沖縄復帰五〇周年記念式典」は、沖縄の米軍基地が持つ戦略的重要性を改めて浮き彫りにするものでもあった。岸田首相が「基地負担軽減に全力」と述べた一方で、バイデン米大統領のメッセージには日米同盟の重要性と「沖縄の貢献に深く感謝」しか触れられていなかった。折しも、嘉手納基地を離陸した米軍の偵察機が北朝鮮の核実験を監視（あるいは牽制）していると報じられたが、沖縄の基地機能をどこかで代替するのは簡単ではない。在沖米海兵隊の一部がグアムに移転する案も当初計画から十五年経ったが、その実施は早くも再来年と見えていない。▼もともと、現状、東アジアの軍事バランスを崩すリスクを冒すべきではなく「敵基地攻撃（反撃）能力」や「核の傘」の議論の進展によつては、むしろ基地機能や軍備の増強となるかもしれない。結局のところ、各国が国境線をめぐって軍事力で対峙する構造が変わらなければ、沖縄の真の返還は実現しない。（ヒゲ）

二〇二一年度OEJAB派遣員が綴る

派遣員としての意気込み

私にとって友愛とは 若者の声を集結 個性あふれる様々な声

二〇二一年度OEJAB派遣員に選ばれた学生に、課題文を提出していただいた。
テーマは、①派遣員としての抱負・意気込み ②「私にとって友愛とは」で、各人各様の意見が集まった。
執筆者の本人の選んだスナップ写真と共に紹介します。頼もしき若い声を聞いてください。

中央大学国際経営学部
国際経営学科四年

奥山千波

OEJAB派遣員としての抱負

私は二〇二一年度OEJAB派遣員として、主に三点を抱負として掲げます。
まず、本派遣事業を通して支援する側と受ける側の両視点からオーストリアが抱える社会問題について考えることです。

特に難民施設や高齢者住宅への訪問は、支援を受け
奥山 千波さん
現在はマルタ共和国に留学中、七月にはメキシコに移動して研修を続けるという



ている方々と交流すること
でメディアでは分からない様々な発見があると確信しています。続いて、難民問題の認識が低い日本が今後進むべき道についても視座を深めることです。ロシアとウクライナの問題で、日本における難民や彼らが抱える問題が取り上げられるようになりましたが、未だ日本人の難民に対する認識は低いままです。私も難民に対する理解はまだまだ不十分なので、この機会に沢山学び、そして深く考えたいです。

私にとって友愛とは

「友愛」という壮大な言葉語るには、私はまだまだ未熟と「自負」した上で、自分なりの解釈をお話しします。私はこの言葉を二つの側面から捉えることができていると思います。それは、自分がこれまで歩んできた人生の中での「友愛」と、異文化の中における「友愛」です。前者は友情や家族、大切な人に対する愛情が表現されています。書いて字のごとくではありますが、この解釈が自分にとっては明確かつ強いメッセージ性を感じます。これまでの経験上、自分が他者に向けて示す友情や愛情は自分が今まで受け取ってきたものに基づいているような気がするからです。

最後に、研修で出会う方々と交流や議論を通して知見を広げながら自分の視野も広げることが挙げられます。私は大学の講義で特に女性と少女が難民支援の現場で弱い立場におかれていることを知り、そこから根幹である難民問題に対して問題意識を持つようになりましたが、他の参加者の方々の関心や目的が自分とは異なっていて大変刺激となります。

難民問題に限らず、様々な社会問題は座学だけでは限界があると感じており、

後者については、国際的な視点から考えた時の「友愛」についてです。私は現在、海外の大学に留学中の

東北大学農学部四年
計良 衛

OEJAB派遣員としての抱負

私は学生時代に、農業と福祉を掛け合わせた「農福連携」の事業を行う障害者就労支援の農業法人でのボランティアを通して、福祉分野に興味を持つてきました。

今回の派遣ではオーストリアの福祉の様子を見学することで、海外の福祉に対する考え方や、取組の様子について学びたいと思います



計良 衛さん
沖永良部島で元気にジャガイモ農家のお手伝い。ミャンマー事業にも専門家として協力を約束

した。

また、ヨーロッパは歴史的に家庭菜園が盛んであるため、生活の一部として庭先で行われているガーデニングの様子を見てみたいと思います。

近年、日本でも貸し農園をはじめとした家庭菜園の人気の高まっているので、家庭菜園・ガーデニングの歴史のあるウィーン現地での取組を見ることが、日本の家庭菜園の在り方についても考えてみたいと思っています。

併せて、高齢者施設などで園芸療法が取り入れられているのかや、若者のガーデニングへの意識についても調べてみたいのです。

期待と意気込みで、力が

みなぎっています。

「私にとって友愛とは」

私が今アルバイトで働いている沖永良部島のジャガイモ農家は、毎年全国各地からアルバイトの若者が三〇人ほど集まります。(結構キツイ仕事なのに、毎年これだけのアルバイトが全国から集まってくるというのは、大変な人気です)

人気の理由を寮母役のおばあちゃんに聞いてみると、「愛情を持って接すれば、自然と返してくれる。」と教えてくれました。

このおばあちゃん、疲れているときに肩を揉んでくれたり、仕事終わりにビールを用意してくれたり、日常の至る所で優しく接してくれます。

私もおばあちゃんが誠心誠意接してくれるので、自然と受け入れ先の農家のことが好きになりました。それは同時に、仕事に対して

も熱が入るようになっていきます。

そして、相手の見返りを求めることなく、相手を目指す気持ちを行動に移すおばあちゃんの思想こそが友愛なのではないかと感じました。

私はこの友愛は、返信のあるなしに関わらず、相手を想う気持ちを手紙という形にして伝えるファンレターに似ていると思います。

ファンレターも送り続けていけば、いつか相手が読んでもくれて、返信が来るかもしれないことも多いのだけれど。でも相手への想いを伝えようとすることが大事なのかなと思います。

相手が必ずしも予想したような反応を返してくれるわけではないので、想いを伝えることは楽なことではないかもしれませんが、続けることは出来ない限り相手との間で信頼関係を築くことは出来ないのだと思います。

今後私は農業の現場で働いていきますが、アルバイトの方々と、同僚・先輩である社員の方々と、そして現場の地域の方々と接する時には、まずは自分から誠心誠意接することで友愛を実践していきたいと思っています。(現在は卒業して沖永良部島で研修中)

東北大学大学院
法学研究科二年
鈴木健太

私にとって友愛とは

OEJABへの応募当初「友愛」という言葉が何を意味しているのか、その本質が掴めていませんでした。しかし、二日間の事前研修を通して「友愛」というものが一体何なのか、少しずつではありますが自分の中で言語化でき始めた部分があります。

私にとって「友愛」とは、他者との対話の根底にあり、想いや価値観、意味などを共有する精神のことを指しているのではないかと感じています。私たちは日常生活においてコンビニなどで店員さんと会話をしますが、それはあくまでも会話であって、対話ではありません。対話とは、自己と他者の異なる価値観を理解

し、それを尊重しあうことによって初めて想いや意味を共有することができます。これは他者と関わっていく上で必要不可欠であり、尊重し合うこと無しには対話は成立しません。この対話の根底にある相互尊重こそが「友愛」だと考えています。

気が付けば遙か昔、ヨーロッパ(カレルギー伯)や、中国(墨子)、そして日本(聖徳太子)なども「友愛」に近いものを語っており、それが大事であると述べています。

「友愛」に基づく精神は太古より国境を越え、世界各国に散りばめられていることが確認できます。

それに関して、鳩山一郎先生が「友愛」という言葉で集約表現され、その後に続く先輩諸氏が、言葉と理念を紐づけたことにより、私たちの中で一種の共通言語としての「友愛」が確立しつつあるように思います。

もちろん、十人いれば十人十色の「友愛」の色が存在することでしょう。その色の総称を「友愛」と名付け、共通して理解することによって、理論面だけでなくより一層各人各色の友愛の実践、拡大に拍車をかけることができるようになっていくと感じました。

現に、鳩山友愛塾の修了生の理事の皆様は日々実践に取り組んでおられ、私も「友愛」という旗を掲げながら今後OEJAB派遣員として本プログラムに励みたいと考えております。OEJAB派遣員としての



鈴木 健太さん
何故かモナリザの隣で、キメて撮影。楽天イーグルスファンとのこと応援ユニフォームもあります

抱負
OEJAB派遣の抱負として、まずは難民の方々の実態的狀況をこの目で、肌で確かめていきたいと思ひます。
日本では相変わらず数バ一セントにも満たない難民認定率になっています。
また、近年コロナ禍による影響もあり、日本の難民認定申請者数は前年に比べて減少傾向にあるようです。
しかし、人々の日々の生活に影響を及ぼす出来事が多発している現況、世界中の難民者数は依然として増加傾向にあり、難民問題の根本的解決には至っていません。
広い視野を持ち、自分事としてこの問題に向き合ひながら私たちに何ができるのか、身を持って考えていきたいです。そして帰国後、体感したことを日本国内で発信し、一人でも多く日本人が心を寄せ合えるような、まさに「友愛」精神の普及活動ができればと思ひます。

北島 貴央
（現在は卒業して国税局に就職 研修で東京在住）
中央大学法学部四年
派遣員としての抱負
この度はOEJAB派遣に選抜いただき、大変光栄に思ひます。今回のプログラムを通じて、オーストラリアや欧州を取り巻く情勢を理解したいです。
私は、大学で中国を中心に東アジア国際情勢を学んでいました。アジア地域の抱える課題こそ多少の知識はあるものの、欧州に関しては門外漢です。このプログラムを機に自分の見聞を広め、より広い視野で国際情勢を考えられればと思ひます。
現地では様々な体験をさせて頂く予定ですが、特に難民施設での若者たちとの交流を楽しみにしています。難民の当事者との交流は、日本国内では滅多にできない経験だからです。故郷から離れて暮らす人々の様子や国際社会の抱える課題を五感で吸収し、一地球市民として、また社会人として今の自分が世の中に還元できることを考えるきっかけにしたいです。
加えて、現地での「縁」を大事にしたいと思ひています。今回の経験がその場限りにならぬよう、密なコミュニケーションで絆を作っていくたらしと思ひます。私にとって友愛とは一言で表すと「他者認知」です。



北島 貴央さん
こちらはヤクルトスワローズファーン。若い人達の間で、野球が廃れていないのは嬉しいことです

友愛の勉強会でも知ったことですが、友愛では「相互尊重・相互理解・相互扶助」を友愛三原則として公式に掲げられています。
私はもっと外側の部分から友愛という理念は始まっているのではないかと考えます。
私がこう考える背景には、「フィルターバブル」への懸念があります。
WebサービスやSNSの技術は日々進化しており、自分が見たい情報をお勧めして表示します。その一方で、見たくない判断された情報は次第に表示されなくなり、人は情報のバブル（泡）の中に包まれるようになります。バブルの

後藤穂乃実
九州大学法学部三年
OEJAB派遣学生としての抱負と期待
この度は、友愛のOEJAB派遣学生としてオーストラリアで十日間、外務省やエヤップ関連施設の難民支援の現場を訪問できるという素晴らしい機会を頂けたことをとても嬉しく思ひしております。心から感謝申し

上げます。
私が、友愛の国際交流事業に応募した理由は、難民問題に関心があったからです。関心を持ったきっかけは、中学生の時に、フォトジャーナリズム雑誌を読んだことです。
そこには、難民の方がヨーロッパに逃れるために、船で地中海を渡る様子を捉えた写真が載っていました。避難する過程で多くの方が命を落としており、やつとの思いで避難した国でも差別や貧困によって苦しんでいると知りました。平和な日本で暮らしている私にとつて、紛争によって命を落とすかもしれない状況に追い込まれてしまう人々が世界には大勢存在することに衝撃を受けました。このことをきっかけに、将来の役に立つような仕事がしたいと思うようになりました。



後藤穂乃実さん
説明ナシのフラガール姿。次回の友愛ユニオンの会で、是非フラダンスをご披露してもらいましょう！ 楽しみです！

大学生活の中で、大学で所属しているプログラムが主催した海外の学生も交えたワークショップに参加し、難民問題について議論したことがあります。日本に住んでいて実際に難民という立場の方にお会ひしたことのない私が、文献や想像力から「難民」の実情を把握できることは限られていると感じています。そのため、実際に難民の方々と交流し、それぞれの方の気持ちや境遇を知り、「難民」という現象についての理解を深めたいと思ひ、このプログラムに応募しました。
国際交流の良いところは、新たな発見が得られる

切にすることであると教わり、私もこれを実践しようと心がけてきました。が、勉強会に参加して、友愛に対する考え方が少し変わりました。
友愛に対する様々な考え方を聞いて、友愛の定義は一つに定まらないけれども、それぞれの友愛の実践によって争いのない平和な世界の実現を目指すということが根底にあるのではないかと思ひました。
私は、友愛が目指す平和な世界を実現するには、身近なところから行動することが必要ではないかと思ひます。
近年、DVやいじめ、近所トラブルなどの人間関係での悲惨な事件が多く起きています。人は、身近な人々に支えられながらも、関わりの深い人との間で争いを起こすことが多いのではないかと思ひます。良好な人間関係を築き平和な社会を築くには、日常生活の中で相手に対して思いやりを持って接し、自分の身近な人を大切にすることが重要で、それこそが友愛ではないかと思ひます。
また、友愛については、理事長・理事の皆様のお考えを拝聴しました。これをきっかけに、私も友愛とは何かについて考えてみました。

軽井沢の
友愛山荘でリラックス
お問合せ・空室状況はこちらへ
友愛山荘
TEL 0267-42-2477

予約受付中
施設詳細はホームページで!!
<https://yuai-sansou.com>



神戸の中華街にある「友愛門」を見つけて早速記念撮影して送ってくれました。左から鈴木さん・木本康瑛さん（2019年派遣員）北島さん。実はこの三人、以前から旧知の仲で、この写真もたまたま友愛門を見つけたので三人で写したのだそうです

内側は心地いい空間である一方で、眺めるトピックの二面性やバブルの外の世界を考える機会が失われてしまふ恐れもあります。
人との関わりにおいても同じことが言えます。
「無関係の人間を愛せ」とまでは主張しませんが、もっと広い視野で考えること、バブルの外に対する意識は常に持つておくべきです。私のいう他者認知とは「自分の知らない他者がいることを自覚する」ことであり、これこそが友愛の第一歩と呼べるのではないかと考えます。

（現在は卒業して電通国際情報サービス勤務。研修で東京在住）
私がこう考える背景には、「フィルターバブル」への懸念があります。
WebサービスやSNSの技術は日々進化しており、自分が見たい情報をお勧めして表示します。その一方で、見たくない判断された情報は次第に表示されなくなり、人は情報のバブル（泡）の中に包まれるようになります。バブルの

友愛の勉強会でも知ったことですが、友愛では「相互尊重・相互理解・相互扶助」を友愛三原則として公式に掲げられています。
私はもっと外側の部分から友愛という理念は始まっているのではないかと考えます。
私がこう考える背景には、「フィルターバブル」への懸念があります。
WebサービスやSNSの技術は日々進化しており、自分が見たい情報をお勧めして表示します。その一方で、見たくない判断された情報は次第に表示されなくなり、人は情報のバブル（泡）の中に包まれるようになります。バブルの

友愛の勉強会でも知ったことですが、友愛では「相互尊重・相互理解・相互扶助」を友愛三原則として公式に掲げられています。
私はもっと外側の部分から友愛という理念は始まっているのではないかと考えます。
私がこう考える背景には、「フィルターバブル」への懸念があります。
WebサービスやSNSの技術は日々進化しており、自分が見たい情報をお勧めして表示します。その一方で、見たくない判断された情報は次第に表示されなくなり、人は情報のバブル（泡）の中に包まれるようになります。バブルの

友愛の勉強会でも知ったことですが、友愛では「相互尊重・相互理解・相互扶助」を友愛三原則として公式に掲げられています。
私はもっと外側の部分から友愛という理念は始まっているのではないかと考えます。
私がこう考える背景には、「フィルターバブル」への懸念があります。
WebサービスやSNSの技術は日々進化しており、自分が見たい情報をお勧めして表示します。その一方で、見たくない判断された情報は次第に表示されなくなり、人は情報のバブル（泡）の中に包まれるようになります。バブルの

友愛の勉強会でも知ったことですが、友愛では「相互尊重・相互理解・相互扶助」を友愛三原則として公式に掲げられています。
私はもっと外側の部分から友愛という理念は始まっているのではないかと考えます。
私がこう考える背景には、「フィルターバブル」への懸念があります。
WebサービスやSNSの技術は日々進化しており、自分が見たい情報をお勧めして表示します。その一方で、見たくない判断された情報は次第に表示されなくなり、人は情報のバブル（泡）の中に包まれるようになります。バブルの

友愛の勉強会でも知ったことですが、友愛では「相互尊重・相互理解・相互扶助」を友愛三原則として公式に掲げられています。
私はもっと外側の部分から友愛という理念は始まっているのではないかと考えます。
私がこう考える背景には、「フィルターバブル」への懸念があります。
WebサービスやSNSの技術は日々進化しており、自分が見たい情報をお勧めして表示します。その一方で、見たくない判断された情報は次第に表示されなくなり、人は情報のバブル（泡）の中に包まれるようになります。バブルの

友愛の勉強会でも知ったことですが、友愛では「相互尊重・相互理解・相互扶助」を友愛三原則として公式に掲げられています。
私はもっと外側の部分から友愛という理念は始まっているのではないかと考えます。
私がこう考える背景には、「フィルターバブル」への懸念があります。
WebサービスやSNSの技術は日々進化しており、自分が見たい情報をお勧めして表示します。その一方で、見たくない判断された情報は次第に表示されなくなり、人は情報のバブル（泡）の中に包まれるようになります。バブルの

二〇二一年度OEJAB派遣員 事前勉強会開催 新しい仲間との出会い



鳩山由紀夫理事長と記念撮影。マルタ島からWebで参加の奥山さんは、モニターの画面で参加。みんな元気な笑顔と希望に溢れています。
写真左から 佐野翔子さん 後藤穂乃実さん 鳩山由紀夫理事長 奥山千波さん（画面）鈴木健太さん 北島貴央さん 計良 衛さん 西川伸起理事（OEJAB担当）

三月二十六日（土）午後一時より、友愛サロンにおいて二〇二一年度OEJAB派遣員に向けての事前勉強会が開催された。
派遣員として選考された六名の学生は（内一名はマルタ共和国に在住のためWeb参加）、この日初めて一堂に会し、一緒に勉強を進めていく仲間と顔合わせをした。大学も学部も異なる各人ではあるが、同じ目標をもつ仲間同士、直ぐに打ち解けて新たな「友愛ユニオン」グループが誕生した。
勉強会には、鳩山由紀夫理事長を始め、中島政希理事、鳩山太郎理事、南楚幸信理事、井田安信理事、攪上哲夫理事、谷藤悦史評議員など多くの方が出席、学生たちと机を並べ講師の話にメモを取りながら聞き入っていた。
講義は、東北大学法学部戸澤英典教授が「クーデ



戸澤英典教授（東北大学法学部大学院）は、クーデス・ヨーロッパ研究の第一人者として、詳細な資料と共に、貴重な講義をしてくださった。



西川伸起理事（OEJAB事業担当・鳩山友愛塾一期修了生）は、「友愛の歴史」と題して自ら編集した資料を基に、丁寧に解説した。



勉強会に出席 学生達と一緒に聞き入る理事・評議員の方々。左から鳩山由紀夫理事長・谷藤悦史評議員・中島政希理事



理事の方々も一緒に勉強会出席。手前から攪上哲夫理事・井田安信理事・鳩山太郎理事・南楚幸信理事。全員熱心に聞き入っています



友愛ユニオンのメンバーとして、また派遣経験の先輩としてOEJABについてなど解説
二〇一九年度派遣の後藤大智さん



友愛派遣員で構成されている「友愛ユニオン」の会、その仲間として皆さんをお迎えしますと挨拶
二〇一九年度派遣の吉田大志さん



二日目勉強会の記念撮影。田中正基評議員（後列右）も参加してくださった。今から鳩山会館見学に出かけます！



二日目の勉強会はビデオによる「私にとって友愛とは」全員が真剣な表情で聞き入っていました。先輩の小倉佑太さんも参加



バラが見頃の鳩山会館のお庭で、建物を背景に「友愛」のポーズをキメようと声を掛け合ったのです。指でハートが作れない？



貴重な資料が展示されている鳩山会館は、日本の歴史の縮図的要素もある。一つ一つに興味津々で見入っていました



鳩山一郎先生が当時政界の要人と面談していた応接間で。タイムスリップしてすっかり大物気分写真に収まっています

◆一年前のこの欄で、事務所近くの緑あふれる散歩道が出来たことをご報告しましたが、今は存在感を増し、青々としています。私の住む所は、県境の近くなので埼玉県立樹林公園、東京都立大泉中央公園が隣接しており、加えて自衛隊朝霞駐屯地も隣接しているのです、その一帯は本当に緑が溢れています。早春の梅、桜に始まって新緑となり、梅雨を超えて緑が深くなる様は、見ていて楽しく、目も心も休まります。山梨の山々を駆け回っていた私にとって、緑は何よりの景色。それだけと言っても、ここに住んでいる価値があると、常々思っています。平穏な日々感謝しつつ。（も）



公益財団法人友愛 会員登録受付中

公益財団法人友愛は、皆さまのご支援・ご理解のもとで活動を続けております。会員登録（個人・法人）をしていただき、これからの友愛の発展にご協力ください。会費は寄付として税控除の対象です。
*申込みはHPからも *お問合せは事務局まで電話03-5684-3188

今月号に同封のご案内をご覧ください!!